

『失われた週末』 原題 <i>The Lost Weekend</i> 1945 年		執筆: 清水 純子
制作国	アメリカ	
スタッフ&キャスト (監督、脚本家、俳優、その他)	スタッフ:監督 ビリー・ワイルダー/脚本チャールズ・ブラケット、ビリー・ワイルダー/ 製作 チャールズ・ブラケット/ 音楽 ミクロス・ロージャ/ 撮影 ジョン・サイツ/ 編集ドーン・ハリソン/ キャスト:レイ・ミランド:ドン・バーナム/ ジェーン・ワイマン: ヘレン・セント・ジェームズ /フィリップ・テリー: ヴィック・バーナム/ 他/	
画像		
カラー・モノクロ	モノクロ	
時間	101 分	
ストーリー	<p>学生時代は天才作家と騒がれ、大学を中退して作家になるためにニューヨークに上京したドンは、予想外に売れない作家だった。自信と自尊心を砕かれたドンは、自分の失敗を忘れようとしてアルコールに頼り、アル中になっていた。職もなく、アルコールの禁断症状に苦しむドンは、面倒見のいい兄フィリップのアパートに居候して、養われていた。ドンを心配する兄は、週末に休暇をとって体にいい田舎に連れ出そうと計画していたが、ドンは、兄に嘘をついて一人で禁じられた酒を飲んで暴れていた。容姿端麗で知的なドンに惚れる女性は多く、ヘレンもその一人で心底ドンを心配していた。愛してくれる兄やヘレンに迷惑をかけるばかりで、わかっている酒の誘惑に勝てない自分に絶望したドンはピストル自殺を図ろうとする寸前でヘレンに救われる。ヘレンの叱責と愛情に打たれて我に返ったドンは、ヘレンのしている前でタイプライターに向かって、アルコール依存症の苦しみをつづる『ボトル』と題した小説を書き始める。</p>	
時代設定	1940 年代	
場所	ニューヨーク	
社会背景	<p>競争の激しいアメリカでは、敗者の精神的なけ口が少ないので、アルコール等によって鬱屈を晴らそうとする傾向がある。人間関係の破綻や仕事の失敗をアルコールによって忘れようとして、アルコールにはまり、さらに個人的に社会的に信用を失い、孤立していく悪循環である。</p>	

文化的背景	東洋人に比べてアルコールの分解能力の高い白人系の人々は、多量のアルコール摂取が可能なのでアル中になりやすい。
使用言語	英語
テーマ	アルコール依存症患者のリアルな実態、アル中が及ぼす心身の崩壊、社会的没落についての真摯な報告と表現。
みどころ	アルコール依存症患者の心理と行動が見事に描かれ、演じ切られている。
印象深いせりふ	HELEN : There must be a reason why you drink. The right doctor can find it. DON: I'm way ahead of the right doctor. I know the reason. The reason is me. What I am. Or, rather, what I'm not. HELEN : What aren't you that you want to be, Don? DON : A writer. Silly, isn't it? You see, in college I passed for a genius. They couldn't get out the college magazine without one of my stories. Boy, was I hot. Hemingway stuff. I reached my peak when I was nineteen. Sold a piece to the Atlantic Monthly. It was reprinted in the Readers' Digest. Who wants to stay in college when he's Hemingway? My mother bought me a brand new typewriter, and I moved right in on New York. Well, the first thing I wrote, that didn't quite come off. And the second I dropped. The public wasn't ready for that one. I started a third, a fourth, only about then somebody began to look over my shoulder and whisper, in a thin, clear voice like the E- string on a violin. Don Birnam, he'd whisper, it's not good enough. Not that way. How about a couple of drinks just to put it on its feet? So I had a couple. Oh, that was a great idea. That made all the difference. Suddenly I could see the whole thing -- the tragic sweep of the great novel, beautifully proportioned. But before I could really grab it and throw it down on paper, the drink would wear off and everything be gone like a mirage. Then there was despair, and a drink to counterbalance despair, and one to counterbalance the counterbalance. I'd be sitting in front of that typewriter, trying to squeeze out a page that was halfway decent, and that guy would pop up again.
授業教材用 メリット	アルコール中毒の恐ろしさがリアルに芸術的に表現されている。レイ・ミランダの熱演に加えて、ビリー・ワイルダーの監督と脚本が見事で色あせない傑作。
授業教材用 デメリット	アルコール飲酒が法的に許可されていない20歳以下の学生に見せるのは将来の警告だということを明確にする必要がある。
映像入手元	ジェネオン・ユニバーサル/ファーストトレーディング/ARC/
原作の有無	チャールズ・R・ジャクソンの同名の小説
支持反応	Rotten Tomatoes 評価 (批評家 100 / 観客 90)
キーワード	アルコール中毒、失職、依存症、アダルトチルドレン、幻覚、精神疾患、禁断症状、ニューヨーク、ライター。

Copyright © Junko Shimizu All Rights Reserved.

★本サイトに掲載される情報の著作権は、清水純子に帰属します。

許可なく複製、改変、アップロード、掲示、送信、頒布、販売、出版等を禁止します。